

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi



年頭挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 松岡 優

新年あけましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

旧年中は会務運営に多大なるご支援、ご指導、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は1月1日の能登半島地震、同地区で9月には記録的な大雨、1月2日には日航機と海保機が羽田空港で衝突・炎上と年始から目を覆いたくなるような大きな災害が発生しました。

不正が大きくクローズアップされた年でもありました。認証不正で自動車、二輪車メーカー5社に立入検査が行われ、是正命令が出されました。政治とカネの問題で10月の衆議院議員選挙で政局は大きくは変わることになりました。

気象庁の発表によると2024年の夏の平均気温は2023年夏に並ぶ観測史上1位の高温でした。9月の平均気温も2023年と同じように高く、夏がなかなか終わらないと感じた人も多かったのではないのでしょうか。秋が短くなり、このまま進むと日本の四季がなくなってしまうのではと危惧しています。

一方、明るい話題では、7月に開幕したパリ五輪大会で日本選手団は、金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個を獲得しました。金、総数ともに海外の夏季五輪では過去最多となりました。9月には米メジャーリーグドジャースの大谷翔平選手が、メジャー史上初の「50本塁打、50盗塁」を達成しました。

当会の活動も新型コロナウイルス感染症流行前の状況に戻りつつあります。12月に開催された第52回埼玉県医学検査学会は木暮憲幸学会長のもと1,000名を超す来場者がありました。また各種研修会に関してもWeb開催から現地開催へと少しずつ以前の状態に戻りつつあります。Web開催に関しましては、現地に赴かず参加できるメリットがあるため開催回数を減らしたかたちで継続していきたいと思っております。

さて、令和6年はタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を開催し5年目となり、この講習会も残すこと1年間となりました。未受講者におかれましては、計画的な受講をお願いします。また、第53回埼玉県医学検査学会では、瀧沢義教氏を学会長とする実行委員会が始動しております。

冒頭申しました通り、近年大きな災害と隣り合わせです。埼臨技におきましても災害マニュアルの策定、各種団体との協定等、災害対策に力を入れていきたいと考えています。

新しい年が、皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

第52回 埼玉県医学検査学会の御礼

開 催 日 : 令和6年12月8日(日)
会 場 : ソニックシティ
テ ー マ : Challenge!
サブテーマ : ~ 多様化するニーズへの実践と進化 ~



第52回埼玉県医学検査学会
学会長 木暮 憲幸

新春の候、会員・賛助会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2024年12月8日(日)ソニックシティで開催いたしました第52回埼玉県医学検査学会におかれましては、参加された皆さま方をはじめ、演題発表・学会企画・講演にご協力いただいた方々、そして協賛企業の皆さま方には、格段のご高配を受け賜り厚く御礼申し上げます。天候と多くの参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。これもひとえに埼玉県臨床検査技師会の松岡会長はじめ理事の方々、当日運営委員の皆さまのご支援によるものと感謝申し上げます。学会運営に際しましては至らぬ点多々あったことと存じますが、次回の学会につなげていく所存ですので、何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます。略儀ながら書中をもって第52回埼玉県医学検査学会終了のご挨拶に代えさせていただきます。

最後に、学会当日を迎えるまでに14回を数える実行委員会を開催し、学術部・運営部を中心に各部の会議を含めると35回を超える議論を重ねてまいりました。支えてくださった実行委員の皆さまに心より感謝申し上げるとともに、Challenge!を継続した第52回埼玉県医学検査学会の実行委員会を誇らしく思います。

第52回埼玉県医学検査学会
実行委員長 塚原 晃

本学会では一般演題67題、学生演題22題、CM演題7題、合計96題と多くの口演発表がありました。発表された皆様方にとってチャレンジの場となりましたでしょうか？また学会企画として2つの特別講演と2つの教育講演、5つの研究班企画と青年部企画、そして市民公開講演を用意し、たくさんの方の気づきと学びを得ることができた講演・企画となりました。講師・座長の皆様方、ありがとうございました。お陰様で1,022名の参加があり、成功裏に終了することができました。本学会開催にあたり松岡会長、神山前会長をはじめ理事・一般・賛助会員の皆様方、ご支援とご協力を賜り実行委員一同深謝いたします。

木暮憲幸学会長を中心に石井圭一事務局長、小原明学術部長、脇谷浩之運営部長、石井直美会計部長をはじめとする18名の実行委員と、学会担当の三木隆治理事・佐瀬勝也理事・伊藤隆史理事の21名で学会テーマでもある「Challenge!」しながら運営してまいりました。学会サブタイトル「多様化するニーズへの実践と進化」の通り、皆様からのニーズに応えるべく、活発な交流の場の提供と、チャレンジ企画やメッセージの提供・発信することができたと感じております。第51回学会から引き継ぎ(connect!)、第52回学会にて発展させ(Challenge!)、次回への助走となりました。第52

回学会実行委員の皆様、自分を褒めてあげてください。そしてありがとうございました。

埼玉県臨床検査技師会の益々のご発展、会員皆様のご健勝、第53回埼玉県医学検査学会実行委員会のご活躍を祈念し、私のご挨拶といたします。ではまた第53回学会でお会いしましょう！



令和6年度 ワークライフバランス推進委員会 研修会のお知らせ

令和6年度 ワークライフバランス推進研修会は「明日からの貴方の日常がより豊かになるために」と題し、開催いたします。埼臨技女性会員にもっと技師会活動に関心を持ってもらいたい、を原点に①女性技師も楽しく参加していただける「医療系接遇」について②「こころ」「からだ」「文化」の総合的な視点から科学的にパワースポットを分析、について2名の講師から紹介いたします。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日時：令和7年2月9日(日) 10:00~12:00
開催場所：RaiBoC Hall (市民会館おおみや) 6階 集会室8
現地開催

研修会整理費：500円

講演 1：アサーショントレーニング -爽やかな自己表現-

講師 1：大賀 淳子 (埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科)

講演 2：パワースポットの科学

講師 2：中山 和久 (人間科学総合大学 心身健康科学科)

募集人数：50名

募集開始：現在募集中

(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)

*研修会終了後、情報交換会を予定しております。

研究班研修会報告

テーマ 腎臓病と向き合う医療従事者

主催 一般検査研究班

実施日時：2024年11月1日 19時00分～20時30分

会場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：腎臓病に立ち向かう検査技師

講師 1：石澤 毅士（慶應義塾大学病院 臨床検査技術室）

講演 2：腎臓リハビリ

講師 2：村井 浩介（埼玉県済生会川口総合病院 リハビリテーション科）

参加人数：会員26名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 松本実華 福島明音
林達矢

研修内容の概要・感想など

【腎臓病と立ち向かう医療従事者】と題して、浦和コミュニティーセンターにて研修会を開催した。

講演 1 では認定腎臓病検査技師である石澤氏から、慢性腎臓病（CKD）の概要から、腎臓の働き、尿沈渣検査や尿中バイオマーカーを含めた腎機能検査、専門・認定腎臓病検査技師制度など幅広い内容であった。現在、慢性腎臓病（CKD）は大きな社会問題となっている。この問題を解決すべく、令和6年度の診療報酬改定で、新たに「慢性腎臓病透析予防指導管理料」が算定された。慢性腎臓病透析予防指導管理料とは、CKDの重症度分類で透析のリスクが高い患者さんに対し、透析を要する状態となることを予防するために、医師、看護師又は保健師及び管理栄養士等が共同して必要な指導を行った場合に算定する医学管理料であり、月1回に限り算定することが可能である。この算定には「医師と腎臓病療養指導士（看護師・薬剤師・管理栄養士）が必須となっているが、臨床検査技師は必須ではない。我々臨床検査技師は、腎臓病療養指導士の受験資格すらない。その問題を解決すべく、日本臨床一般検査学会から新たな認定資格である「専門・認定腎臓病検査技師」の資格試験が誕生した。埼玉県内では、資格取得者がいないため、これからの普及に期待したい。

講演 2 では理学療法士の村井氏から、透析患者の現状について最初に説明があった。透析患者数は増加の一途だったが、2022年より若干ではあるが患者数は減少に転じているとのことだ。次にフレイルについて説明があった。身体的フレイルの指標は①体重減少（半年で2～3kg減）②握力が弱い（男性26kg、女性16kg未満）③疲労感がある（わけもなく疲れた感じがする）④歩くのが遅い（歩行速度1.0m/秒未満）⑤運動習慣がないの5項目あり、該当項目が0項目の場合が健常、1～2項目の場合がプレフレイル、3項目以上がフレイルと評価される。高齢化社会に伴い、フレイルの問題が浮き彫りとなっている。また、透析患者の約2割がフレイル、約5割がプレフレイルと診断されていると驚きの報告があった。

最後に腎臓リハビリテーションについて説明があった。腎臓リハビリテーションは腎疾患や透析医療に基づく身体的・精神的影響を軽くし、息切れや疲れやすさなどの症状を軽くし、生命予後を改善し、心理社会的ならびに職業的な状況を改善することを目的として、運動耐容能を上昇させることでQOLを有意に改善させることである。リハビリ動画を提示いただき、想像以上に運動していたのでとても驚いた。

今回の研修会で得た知識を、これからのCKD予防のために繋げたい。

（文責：藤村和夫）

テーマ **第26回秩父臨床化学セミナー**

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2024年11月9日 14時00分～2024年11月10日 12時00分

会 場：宮本の湯（秩父郡小鹿野町） 教科・点数：専門教科ー30点

講演 1：みんなで学ぼう！～1から理解する血液ガス分析から～

講師 1：福島 渉（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 2：免疫測定法におけるピットフォール

講師 2：渡邊 剛（埼玉医科大学総合医療センター）

講演 3：臨床検査技師と医療DX ～コンピューターを用いた業務改訂・RPA開発～

講師 3：横田 進（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

講演 4：精度管理とうまく付き合う方法

講師 4：久富 大樹（関東労災病院）

講演 5：ナイトセミナー ～みんなで考えるシュミレーションでコミュニケーション～

講師 5：北川 裕太郎（埼玉医科大学病院）

講演 6：電子天秤を使用したピペットの自主検査や管理・点検方法について

講師 6：西塚 昌弘（エー・アンド・デイ株式会社）

講演 7：関節リウマチと関連する検査 ～MMP-3を中心に～

講師 7：横田 佳那代（積水メディカル株式会社）

参加人数：会員45名 賛助会員28名 非会員1名

出席した研究班班員：北川裕太郎 杉村楓 永井謙一 田中満里奈 福島渉 河野邊和弘
稲葉拓郎 関根梢恵 廣瀬良磨

研修内容の概要・感想など

今年度で26回目となる秩父セミナーを11月9日～11月10日の2日間で開催した。

福島氏の「みんなで学ぼう！～1から理解する血液ガス分析～」では、血液ガス分析について、血液ガス分析の項目、基準値など基礎的なことを聞くことができた。血液ガス分析を読む方法では、ステップ1がアシデミアかアルカレミアか、ステップ2が呼吸性か代謝性か、ステップ3が疾患や原因を考える、ステップ4が代謝性ならアニオンギャップと乳酸を評価、ステップ5が代償されているかどうかと、全部で5つのステップで解説をしていた。さらに、この5つのステップを使って練習問題を行っていたため、血液ガス分析の読み方が定着できたと感じた。

渡邊氏の「免疫検査におけるピットフォール」では、免疫測定法における測定原理、測定濃度、ピットフォールなど基本的なことを聞くことができた。免疫検査におけるピットフォールには検査前（検体処理）に起こる、溶血・異物混入・マイクロフィブリン・攪拌、異なる測定機器や測定法・測定原理による検査由来、検体由来や生理的要因で起こる薬剤・検体保存・異常タンパク・HAMAの影響があることがわかった。そして、これらのピットフォールがどのようにして生じるのか、測定値がどのように変化するのか、ピットフォールを起こさないための注意点などの解説を聞くことができ、今後免疫検査業務に携わる際は、活かしていきたいと思った。

横田氏の「臨床検査技師と医療DX ～コンピューターを用いた業務改善・RPA開発～」では、医療DXの内容、VBA、RPAについて詳しい解説を聞くことができた。医療DXの取り組みとしては、ペーパーレス化、オンライン予約/問診、オンライン診療、ビックデータの活用などがある。これらにデジタル技術を活用することで、医療の効率や質を向上させることが医療業界における課題となっている。VBAでは、試薬・物品管理システムや、インシデント報告の共有システムなどを作ることができ、様々なシステムがつけられる可能性があり、業務改善につながることもわかった。RPAは、パソコンで行っている事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術で、プログラミングを組むことができれば、業務効率や業務時間を短縮できると感じた。

久富氏の「精度管理とうまく付き合う方法」では、目標値・管理幅の設定、ブランクキャリブレーション、手動的キャリブレーション方法や精度管理試料の溶解について説明がなされた。

目標値の設定には、正確性が保証された目標値の設定と、業務を圧迫しない目標値の設定が必要であり、管理幅の設定は装置の状態を把握し、許容誤差限界など考え、管理幅の妥当性を考える必要があると感じた。ブランクキャリブレーションや、手動的キャリブレーションでは、原理や簡単な方法などが紹介され、メリットやデメリットも説明された。精度管理試料の溶解については、溶解時の重要なポイントを説明され、日常業務でも意識していこうと思った。

懇親会終了後には北川氏による「ナイトセミナー ～みんなで考えるシミュレーションでコミュニケーション～」がグループワーク形式で行われた。事象に対してグループ内で様々な立場や経験から考えをまとめ、発表をしたり演じるというものであった。日常の悩みを相談できる場でもあったため、参加者同士が横のつながりを持つことができたと感じた。

西塚氏の「電子天秤を使用したピペットの自主検査や管理・点検方法について」ではピペットの選定方法、管理、操作方法などについて解説された。ピペットの選定は、使用量に合わせたピペットを使用することにより、誤差が少なくすむことがわかった。ピペットの管理には、外観チェック、機能チェック、リークチェックがあり、様々な点検があることが分かった。ピペットの操作方法は、吸引や排出時のポイントや、注意点などを聞け、日常業務でも実践を試みようと思った。そして、電子天秤を使用したピペットの点検の実演では参加者から1人選び、講師の指導のもと実演していた。

横田氏の「関節リウマチと関連する検査 ～MMP-3を中心に～」では関節リウマチについて、診断・治療、検査項目、治療薬剤による副作用について聞くことができた。関節リウマチは何らかの自己免疫的機序によって生じ、慢性的に経過する関節炎を主とする疾患である。関節リウマチは治療開始が遅れてしまうと、薬の効果が得られにくくなってしまっただけではなく、関節が変形してしまうと元に戻らないという問題が起こってしまうため、早期診断、早期治療が最も重要であると感じた。検査項目は、血清MMP-3検査など様々なものがあり、それらを総合して診断する。血清MMP-3はリウマチ関節局所の病態を反映すると考えられているため重要な検査であることがわかった。治療薬剤による副作用では、間質性肺炎、MTL-LPDが発症してしまうことが知れた。

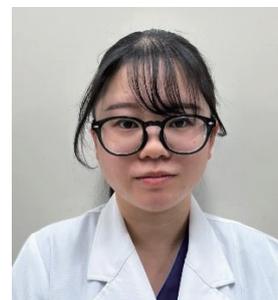
今年の秩父セミナーは他都県からの参加者も多く、おおいに盛り上がった。参加者同士の繋がりができたセミナーであったと感じた。来年度もこの繋がりをさらに広げていけるよう継続していきたいと思う。

(文責：廣瀬良磨)

秩父セミナーに参加して 1

株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所
武藤 杏実

講演は2日間に分けて行われ、1日目は血液ガス・免疫学ピットフォー
ル・医療DX・精度管理の4演題、2日目はピペットの管理方法・関節リウ
マチの2演題の計6演題がありました。特に印象に残ったのは医療DXにつ
いての講演で、プログラミングそのものについてだけでなく、システム化す
ることで生まれる時間的余裕により患者さんに寄り添う時間が増えることや
コスト削減に繋がることなど、機械やパソコンについての知識が少ない私で
も内容を身近に感じることができました。職場にある在庫管理システムや勤
怠管理システムなど我々が普段から当たり前に使っているものがこれだけ複
雑だと知ることができ、これらを作り管理してくださっている方々がいることに改めて感謝の気持
ちを持つことができました。またナイトセミナーとオールナイトセミナーもいい学びと経験になり
ました。グループワークを通して、初めてお会いする方と沢山お話できたのは緊張もしましたが楽
しかったです。横のつながりの重要性を知るとともに、それを持てた素敵な研修会でした。ありが
とうございました。



秩父セミナーに参加して 2

上尾中央医科グループ 白岡中央総合病院
遠藤 優太

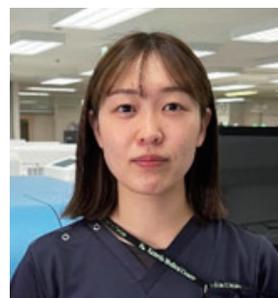
今回、初めて秩父セミナーに参加しました。臨床化学分野に限らず多岐にわたる分野の講義を計6つ受けました。オールナイトセミナーでは、講義してくださった講師の方に日頃の疑問について質問・相談し、有益なアドバイスをいただきました。日常での業務に活かしていきたいと思います。また、他施設の方々との交流を通して「横の繋がりをつくる」ことができ、とても充実した有意義な2日間を過ごすことができました。また機会がありましたら、是非参加したいと思います。



秩父セミナーに参加して 3

亀田総合病院
鈴木 弓絵

今回、第26回秩父臨床化学セミナーに参加し、非常に有意義な経験をさせていただきました。セミナーは2日間にわたり、血液ガスの基礎や精度管理、メーカーの方によるセミナーなどの講義を多角的に学ぶことができました。特に、精度管理はどこの病院でも悩みがあると思います。課題について具体的な事例を交えながらの説明は大変参考になりました。また、千葉県から参加をさせていただきましたが、ナイトセミナーや懇親会で他県の参加者と情報を交換することで、日々の業務に生かせる新しい視点を得ることができ、横の繋がりが増えたことは大きな収穫でした。



自施設のやり方にとらわれずこれまで取り組んできた業務や知識を見つめ直し、さらに向上するための道筋を示す機会になりました。今後もこのような研修や勉強の機会を通じて、自身のスキルや知識を深め、チーム医療においてより大きな貢献ができるよう努力してまいります。

テーマ 第2回 埼玉心電図スペシャリスト2024スマホで問題に挑戦！ 実力確認！

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年11月14日 19時00分～21時00分
会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点
講師：池田 裕（さいたま市立病院）
南雲 涼太（かわぐち心臓呼吸器病院）

参加人数：会員259名 非会員2名

出席した研究班班員：南雲涼太 野村和弘 新井雅人 島内一輝 松平悠

研修内容の概要・感想など

今回は、2022年度に引き続き南雲涼太氏と池田裕氏による心電図についての講演であった。講演前半、研修会参加者はGoogle Formsで作成した回答フォームにスマホ等でアクセスし、Zoom画面に70秒間隔で表示される25問の問題を解いた。なお、回答時間は解説時間とのバランスや難易度の調整を考慮し設定した。今回は回答時間を前回の50秒から70秒に延ばし余裕をもたせた。迅速かつ正確な判読をすることは適切な情報を速やかに臨床にフィードバックするうえで重要である。時間制限のある中で問題に臨むことはそのような日常業務にも活きるのではと考える。参加者からの問題回答数は220件であった。

講演後半では、問題の解説を行った。この解説中、リアルタイムで設問ごとに正答率を提示することによって問題難易度の明確化に繋がった。本研修会は実力を確認すること、自分の伸びしろを認識し勉強のモチベーションをあげてもらうことが目的である。さらには解説を聞き

復習することで知識の定着に繋がると考える。

前は、参加者の中で満点の方はいなかったが、今回は満点が1人であった。前は、平均点数が11点と低かったが、今回の研修会は15点と上昇した。25点1人、24点2人、23点6人、22点13人の合計22人を成績優秀者とし、その中で同意が得られた方のみ、氏名と所属を研修会中に発表した。なお、成績優秀者には後日メールにて表彰状を送付した。今回のような参加型の研修会は参加者を飽きさせず、楽しみながら学ぶことができる有効な方式であると感じた。参加者には今回の研修会で学んだことが、今後の学習や業務の一助になることを期待したい。

(文責：野村和弘)

テーマ 可用性IL-2レセプターについて 悪性リンパ腫とバイオマーカー ～可溶性IL-2レセプターの基礎について～

主催 血清検査研究班

実施日時：2024年11月14日 18時30分～19時30分
会場：Web開催 教科・点数：基礎教科-20点
講師：横田 佳那代 (積水メディカル株式会社)
参加人数：会員58名 賛助会員6名

出席した研究班班員：

(血清検査) 渡邊剛 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 吉田萌香 深田愛
(臨床化学) 河野邊和弘 杉村楓

研修内容の概要・感想など

今回の研修内容である可溶性IL-2レセプターは(sIL-2R)は免疫検査項目だが、実際の業務では臨床化学担当技師が担っている施設も見受けられるため、臨床化学検査研究班と合同開催となった。また、今年度の血清検査研究班による研修会は現地開催としてきたが、一部の埼臨技会員からWeb開催を望む声があったためWeb開催とした。

研修会は、悪性リンパ腫とはどのような疾患なのかという基本的な内容から、悪性リンパ腫の腫瘍マーカーであるsIL-2Rの測定意義などまでを網羅した内容であった。

悪性リンパ腫はリンパ球に由来する悪性腫瘍の総称であり、新規罹患者数は増加傾向にある。悪性リンパ腫はWHO分類、Ann Arbor分類(病期による分類)および臨床分類によって分類される。WHO分類では、ホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に分けられる。さらに、非ホジキンリンパ腫はB細胞腫瘍とT細胞・NK細胞腫瘍に分けられる。Ann Arbor分類では、病期をI期からIV期に分け、数字が大きくなるほど病変の広がりも大きくなる。臨床分類では、インドレントリンパ腫、アグレッシブリンパ腫および高度アグレッシブリンパ腫に分けられ、悪性度が高いほど進行のスピードが速くなる。

腫瘍マーカーであるsIL-2Rは、IL-2がT細胞膜上のIL-2レセプターと結合した際に、IL-2レセプターの一部が血中に遊離したものである。悪性リンパ腫の腫瘍マーカーであるが、他のガン、自己免疫性疾患や感染症でも高値となる。測定による保険点数は438点で、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、測定の時期によって測定意義が変わってくる。悪性リンパ腫と診断される前では診断の補助項目であり、診断直後では予後因子となる。治療中ではR-CHOP療法など治療法の効果判定の指標となり、治療後には寛解状態のモニタリング指標となる。さらに経過観察中では、高悪性度リンパ腫への移行の指標にもなり得る。

血清検査研究班の研修会として今年度で最も多い参加会員数を記録したが、会員の半数以上は県外会員であった。本来は県内会員のための研修会であるため、Web開催や現地開催を問わず、より多くの県内会員が参加しやすい内容や運営方法を検討する必要がある。

(文責：森圭介)

テーマ **ハンズオンセミナー「触って学ぶ 尿中薬物検査キット」**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2024年11月15日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 604会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：荒木 宏治（株式会社バイオデザイン）

参加人数：会員20名 非会員1名

出席した研究班班員：吉田翔平 坂田竜二 佐藤和 鈴木由美子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は『触って学ぶ尿中薬物検査キット』をテーマに、株式会社バイオデザインの荒木宏治氏を講師に現地にて開催した。

尿中薬物検査とは、社会規範から逸脱した目的や方法で使用し、医薬品や違法薬物を【尿】から検出し、原因や死因を究明するために行っている。現在、警察・海上保安庁・麻薬取締部・自衛隊警察隊などの捜査機関や、救命センター・病院・クリニック・健診センターなどの医療機関で使用されている。近年では、パブロンゴールド（略：キンパブ）やブロン液などの風邪薬を過剰に服用するオーバードーズが若者の間で深刻化しており、その大半は10～20代で中でも女性が多い。ストレスや悩みごとなど気分が落ち込んだ際に10錠以上の風邪薬を一度に服用することが近年では流行りになっていると話されていた。服用薬物乱用の対象となるのは、覚醒剤に次いで睡眠薬・抗不安薬、風邪薬の順になっている。

また、救命センターに意識障害で運ばれ、薬物検査を実施した場合、急性薬物中毒加算1（機器分析）5000点、急性薬物中毒加算2（その他）350点で入院時どちらかを算定可能であるが、簡易検査キットは算定不可とされ、薬物中毒を疑って検査をした結果、薬物中毒でなかった場合は算定できないと話されていた。

薬物検査実施時の同意については、1)医師が治療目的を有していること 2)医療行為の方法が現代医学の見地からみて妥当である 3)患者本人の同意があること、しかし意識障害、同意能力がない場合は家族の同意があればよしとし、家族の同意もとれない場合でも緊急性が高ければ医療行為は可能であるとしている。

最新の話では、令和6年12月12日より「大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締の一部を改正する法律」の一部が施行される。これは、大麻等の不正な施行についても麻薬および向精神薬取締法の「大麻」として禁止規定および罰則（施用罪）が適用される。この法案は、現在の大麻取締法には、施用罪は規定されていない。所持、譲渡、譲受、輸入のみだが、今後は、施用（使用）したら罰則が適用されることになる。

今回、現地で開催した理由は、参加者全員に検査キットIVeX-screenを用いて、実際に検査を体験していただいた。違法薬物（覚醒剤・大麻・コカイン・モルヒネ）と向精神薬（ベンゾジアゼピン系・バルビツール酸系、三環系抗うつ薬）の検査を偽陽性に調整した溶液を用いて実施した。抗原固相の競合法を原理とし、テスト領域にラインが出現しない場合を【陽性】と判定することが分かった。われわれが、感染症の検査で使用するイムノクロマト法の判定とは、相違するので注意が必要である。

今回の研修会では、参加者全員が検査キットを用いて実習することができ、貴重な経験となった。荒木氏からは、現在ニュースで取り上げられている違法薬物の話題から検査機関での検査実施時の注意点、法律の観点から幅広く話していただき、大変、興味深い内容の研修会であった。今後も公衆衛生検査ならではの観点から研修会を開催していきたい。

(文責：鈴木由美子)

テーマ **初心者・初級者 末梢血液形態セミナー**
～ 基本形態の分野から症例標本の観察までを実施します ～

主催 血液検査研究班

実施日時：2024年11月24日 10時00分～16時00分

会場：学校法人 明星学園国際医療専門学校 臨床検査実習室

教科・点数：専門教科－20点

講師：中山 智史（防衛医科大学校病院）
堀口 大介（獨協医科大学埼玉医療センター）
堀内 雄太（川口市立医療センター）
澁川 絵美（自治医科大学附属さいたま医療センター）
吉澤 悟（壮幸会 行田総合病院）
加藤 鉄平（埼玉県済生会加須病院）
石田 沙妃（学校法人明星学園 国際医療専門学校）
島田 崇史（埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部）
窪田 勝己（埼玉医科大学病院）
山崎 淳也（株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所）

協賛：シスメックス株式会社

参加人数：会員25名 賛助会員2名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 加藤鉄平 石田沙妃
島田崇史 窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

前半は窪田氏より血液形態学の基礎的な講演が行われ、後半は実習室にて鏡検実習が行われた。小テストで班分けをし、4～5名のグループに1つモニターを置き、講師が実際に見ている目的の細胞を映し出し、それを参考に鏡検を行った。基本的な細胞から病的な細胞まで形態学的特徴を学ぶことができ、基礎から実践まで学べる研修会であった。

（文責：加藤鉄平）



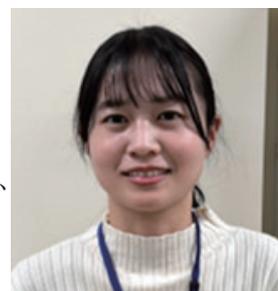
初心者・初級者 末梢血液形態セミナーに参加して

埼玉慈恵病院
佐藤 志保

私は、今年度から血液検査に携わるようになり、今回の研修会で基礎を学びたいと思い参加させていただきました。

前半の講義では、形態の観察のポイント・染色などの基礎を学び、午後の実習では実際の症例の標本を用いて様々な細胞を鏡検しました。鏡検で迷っていたことや不明に思ったことをすぐに講師の方に質問ができ、理解が深まりました。

今回の研修会で得た知識を日常業務に活かしていきたいです。





令和6年度 埼臨技リーダーシップ研修会のお知らせ

本研修会は、今後、地域または職場でのリーダーとなる人材の育成を目的にした研修会です。ボードゲームを使用しながら臨床検査技師の多様性を知り、リーダーシップについて楽しく学べる内容です。教養だけでなく他施設技師との情報交換の場にもなりますので、ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日：令和7年2月15日(土) 14:00~16:30

開催場所：ソニックシティビル 905号室

現地開催

研修会整理費：500円

講演：ボードゲームで楽しく学ぶ、臨床検査技師の未来の多様性
～臨床検査技師キャリアデザイン講座in埼玉～

講師：神戸 翼（医療法人社団永生会 永生総合研究所）

募集人数：20人

募集開始：開催1か月前を予定

(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)



2024年度 青年部研修会のお知らせ

青年部委員会では毎年、若手技師が同世代の技師との交流や共感、互いに自己研鑽できるような研修会を企画しています。

今年度は研修会のテーマを「私のワンランクアップ術」として開催いたします。赤十字病院勤務の3名に講師をお願いし、サブタイトルを「～人道・博愛の赤十字精神で学んだ5年間」としました。①役割変化（後輩への教育や3～4年目の役割についてなど）、②専門分野（スキルアップに繋がった症例報告など）、③スキルアップ（学会参加や埼臨技の活動などによって成長できたこと）についてのご講演です。本研修会を参考に、皆様のワンランクアップ術に活かしていただければと思います。

皆様のご参加お待ちしております。

開催日：令和7年2月21日(金) 19:00~20:00

Webにて開催（Zoom使用）

研修会整理費：500円

募集人数：500人

募集開始：開催1か月前を予定

(詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください)



令和6年度 第2回検査室管理運営委員会 研修会のお知らせ

検査室管理運営委員会では管理職のみならず、検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。

本研修会は「ロボット・AI・新しい技術の医療への展望」と題し、開催いたします。昨今の医療DX推進の流れと共に、人口減少によるAIやさらなる自動化・ロボット化推進も考慮する必要があり、検査室管理運営をするにあたり、考えるきっかけとすることを目的に企画いたしました。ぜひ多くの方のご参加、お待ちしております。

開催日：令和7年2月27日（木）19：00～20：00
Webにて開催（Zoom使用）

研修会整理費：500円

講師：荒木 秀夫（株式会社東京未病センター TMC日本橋ラボ）

参加費：無料

募集人数：200人

募集開始：開催1か月前を予定

（詳細は日臨技の会員専用ページでご確認ください）



令和7年度技師会会費納入のお願い

令和7年度技師会会費納入の時期となりました。会費は前納制となっており、令和7年2月27日(木)に登録済み口座より振替となりますので、ご準備をお願いいたします。

また、不明な点につきましては、埼臨技事務所までご連絡をお願いいたします。

なお、本年度で退会を希望される方は、3月31日までに（一社）日本臨床衛生検査技師会HPより手続きをお願いいたします。（2月1日以降に退会手続きを行った場合は、口座より引き落とされますので、返金手続きが必要となります。）

ご理解、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳

| | | | |
|--------|-------------|-----|---------|
| 一般社団法人 | 日本臨床衛生検査技師会 | 会費 | 10,000円 |
| | | 入会金 | 2,000円 |
| 公益社団法人 | 埼玉県臨床検査技師会 | 会費 | 5,000円 |
| | | 入会金 | 1,000円 |

継続会員合計 15,000円

新入会員合計 18,000円

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第10回 理事会議事録**

日 時：令和6年12月12日(木) 18時30分より

場 所：大宮RaiBoc Hall 会議室6

さいたま市大宮区大門2-118

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：松岡 山口 濱本 西田 三木 佐瀬

網野 伊藤 藤原 塚原 神嶋 笛木

長谷川 神戸 小林 工藤 久保田

原 土田

(監事)細谷

欠 席：(理事)猪浦 阿部 長岡

(監事)遠藤

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年11月14日～令和6年12月11日)

11月14日(木) 令和6年度第9回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、塚原、神嶋、長谷川、笛木、神戸、小林、工藤、久保田、原、土田、遠藤

11月15日(金) 川越保健所による衛生検査所立入検査同行：松岡

11月16日(土) 第5回日臨技理事会：猪浦

11月17日(日) タスクシフト講習会埼玉030：

濱本、塚原、佐瀬、三木、藤原、笛木

11月20日(水) 埼玉県による衛生検査所立入検査同行：松岡

11月20日(水) 青年部委員会予演会：塚原、神戸

11月21日(木) 第52回埼玉医学検査学会実行委員会：松岡、伊藤、三木

11月22日(金) 川越保健所による衛生検査所立入検査同行：松岡

11月22日(金) 国民医療を守るための総決起大会(日本医師会)：佐瀬

11月29日(金) 埼玉県による埼臨技事務所立入同行：松岡、濱本、神戸、小林

11月29日(金) 事業部Zoom会議：

塚原、長谷川、笛木

12月3日(火) 第53回埼玉医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

12月6日(金) 川越保健所による衛生検査所立入検査同行：松岡

12月8日(日) 第52回埼玉県医学検査学会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、藤原、塚原、神嶋、長谷川、笛木、神戸、小林、久保田、長岡、原、土田、遠藤

12月9日(月) 予算委員会：

松岡、猪浦、山口、濱本、三木、長谷川、久保田、神戸、小林、工藤、西田

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 11月29日(金)、埼玉県医療整備課による法人立入り検査を受検した。(別紙資料1)

2) 埼臨技事務所の動産保険、火災保険について昨年度と同様のプランで契約更新する予定。

3) 12月2日よりパート事務員勤務を開始した。

2 総務部

1) 11月17日(日) タスクシフト講習会 埼玉030を開催した。(別紙資料2)

2) 12月15日(日) だより第547号発行予定。

3) 12月15日(日) 創立70周年記念誌発行予定。

4) 12月15日(日) 令和6年度会員名簿発行予定。

5) 1月19日(日) タスクシフト講習会

埼玉031 開催予定

猪浦(責任者)、長谷川、小林、伊藤、藤原、原、佐瀬

6) 2月16日(日) タスクシフト講習会

埼玉032は23日(日)に変更

佐瀬(責任者)、猪浦、藤原、伊藤、工藤、土田

3 事業部

- 1) 全国「検査と健康展」(埼玉会場) 名義後援団体へお礼状と報告書の送付、日本臨床衛生検査技師会へ報告書の送付を行った。
(別紙資料3)
 - 2) 11月20日(水) 青年部委員会会議を行った。
(別紙資料4)
 - 3) 11月29日(金) 事業部会議を行った。
(別紙資料5)
 - 4) 2月9日(日) ワークライフバランス推進委員会研修会 開催予定
明日からの貴方の日常がより豊かになるために
 - 5) 2月15日(土) 埼臨技ニューリーダー育成研修会 開催予定
埼臨技リーダーシップ研修会
～検査技師の多様性と可能性～
 - 6) 2月21日(金) 青年部委員会 研修会開催予定
私のワンランクアップ術
～人道・博愛の赤十字精神で学んだ5年間～
 - 7) 2月27日(木) 検査室管理運営委員会 研修会開催予定
ロボット・AI・新しい技術の医療への展望
- ### 4 学術部
- 1) 12月15日に埼臨技会誌Vol.71 No.2発行予定。
- ### 5 精度保証部
- 特になし
- ### 6 会計部
- 1) 令和6年度正会員費6名30,000円、入会金6名6,000円、合計36,000円の入金があった。
 - 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金86,500円の入金があった。累計283,500円/6回
 - 3) 石井印刷に埼臨技だより第546号Web版12P59,400円を支払った。
 - 4) インダ印刷に70周年記念誌代260,765円を支払った。
 - 5) 12月9日(月) 予算委員会を開催した。
- ### 7 精度管理委員会
- 特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

- 1) 11月16日(土) 日臨技第5回理事会が開催された。
(別紙資料6)

11 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月21日(木) 第14回実行委員会が開催された。
(別紙資料7)

12 第53回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月12日(火) 第1回実行委員会が開催された。
(別紙資料8)
- 2) 12月3日(火) 第2回実行委員会が開催された。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和6年度分)

令和6年12月1日現在
会員数 3,678名 [令和5年度会員数3,572名]
(新入会員280名)

賛助会員 73社 [令和5年度71社]

承認された。

- 2) 順天堂大学医療科学部大学院設置に向けて
埼臨技からの要望書作成依頼

(別紙資料9)

上記の件について、松岡優会長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 常勤職員就業規則の改定について

(別紙資料10)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

- 1) ワークライフバランス推進委員会、埼臨技ニューリーダー育成、青年部、検査室管理運営委員会、4研修会の開催案内を「だより」に掲載したい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

- 1) 細胞検査研究班のアンケート調査実施について (別紙資料11)

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会

特になし

9 第53回埼玉県医学検査学会

特になし

10 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

今年は日本で20年ぶりに万博が開催されます。「いのちの輝き」をテーマとした万博のマスコットキャラクターは、細胞と水がひとつになって生まれたふしぎな生き物「ミヤクミヤク」。脈々と引き継がれるヒトやモノや情報が、IoT、AI、ロボティクス、ビッグデータ、バイオテクノロジーといった技術により、様々な地球規模の課題が解決される社会となる。それは臨床検査の未来にどのような変化をもたらすのでしょうか…

さて、新年を迎え、臨床検査技師国家試験がいよいよ近づいてきました。今年は第71回となり、2月19日(水)に実施されます。この大切な時期、学生たちの勉強に励む姿を見ていると、指導者としての責任を強く感じます。この国家試験は、彼らの人生において重要な一歩です。無事に臨床検査技師となり、自分の夢に向かって邁進して欲しいと願っています。そしてこれからの臨床検査に新しい風を入れ、脈々と受け継いで欲しいと思っています。

(藤原 記)

